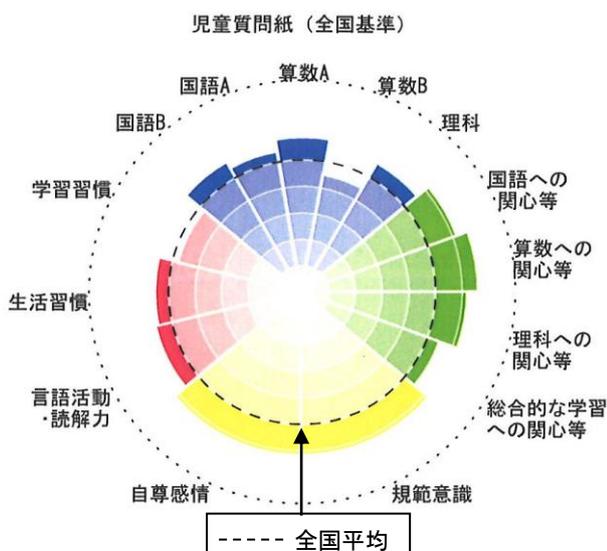


全国学力・学習状況調査の結果から

○本年度 4 月に全国の小学校 6 年生及び中学校 3 年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果が 8 月下旬に公表されました。学力面では、以前にも増して各都道府県の差が縮まり、いわゆる「底上げ」が進んでいるようですが、国語については、「文章全体の構成や表現の工夫を捉えること・引用すること・取材した内容を整理しながら記事に書くこと」、算数については、「基準量・比較量・割合の関係を捉え、基準量を求めること」、理科については、「観察・実験の結果などを整理・分析した上で、解釈・考察し、説明すること」等に課題があることが報告されています。



本校は、国語 A・B、算数 A、理科で、県・全国平均レベルを上回っていますが、算数 B については、若干の改善は見られるものの、依然県・全国平均には届いていないという結果が出ています（A は基礎、B は活用問題）。少人数であることの良さを生かし、子どもたちの学習意欲を高めながら丁寧な学習を積み重ねてきたことが成果となって表れていますが、「習ったことを生活の中で活用する」「既習の知識を使って考える」「根拠を明確にして話したり書いたりする」等の学習にまだ課題があるということが分かりました。教員の資質向上・共通理解を図りながら、その課題克服に向けての取組を 2 学期



以降も継続していかなければなりません。そのためには、家庭での協力が不可欠となります。グラフにも表れていますが、本校児童は、学習習慣に課題があることが分かります。具体的には、「学校が休みの日の勉強時間が少ない」「家で、計画的に勉強できていない」「宿題はきちんとしているが授業の予習はあまりしていない」といった実態があります。『自ら課題を見つけ、自ら考え、自ら解決する』また、『やる気と根気を持ち、苦しいことから逃げずに挑戦し続ける』そんな児童の育成をめざして、今後も学校と家庭の協働を図っていきましょう。

○今回の調査で特筆すべき点として、「家の人は授業参観や運動会によく来る」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた本校児童が 100% だったということがあげられます。『愛情という水を与えられて育った子どもは、人にも愛情をもって接することができる』ということではないでしょうか。本校の伝統として今後も是非引き継いでいきたいものです。

